

日吉小学校ラウンドテーブル

第1回 平成29年6月7日

大阪市西区役所・大阪市教育委員会

日吉小学校の現状

堀江中学校下では、近年のマンション建設により若い世代が急増し、まちが活性化する一方で児童・生徒が急増し、学校の狭隘化が進行しています。

日吉小学校においても児童数の増加は著しく、現在増築工事中の教室をすべて使っても、平成33年度以降には教室が不足する可能性があります。

また、同じ堀江中学校下の堀江小学校では、校舎増築が限界に達しており、堀江中学校と併せて西高等学校用地を活用した教育環境課題の改善が検討されつつあります。

このような状況の中、日吉小学校においては、自校および中学校下における児童・生徒数の推移見込みを注視しつつ、将来の日吉小学校の在り方について検討する必要があります。

堀江中校下児童・生徒数及び学級数の推移見込み（28年5月推計）

学校名	普通教室	29年度 (2017)		30年度 (2018)		31年度 (2019)		32年度 (2020)		33年度 (2021)		34年度 (2022)	
		学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数
日吉小	23	24	874	27	957	30	1,064	32	1,142	35	1,237	39	1,391
堀江小	30	30	1,032	34	1,170	37	1,296	39	1,394	43	1,537	46	1,659

《日吉小学校の増築工事》

29年度増築（12教室）

《堀江小学校の増築工事》

29年度増築（8教室）

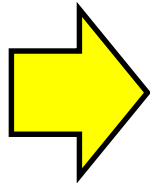
31・32年度増築（10教室）

学校名	普通教室	29年度 (2017)		30年度 (2018)		31年度 (2019)		32年度 (2020)		33年度 (2021)		34年度 (2022)	
		学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数
堀江中	18	15	567	15	586	16	614	18	692	20	767	21	811
		35年度 (2023)		36年度 (2024)		37年度 (2025)		38年度 (2026)		39年度 (2027)		40年度 (2028)	
		学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数
		23	886	26	978	30	1,122	31	1,179	33	1,284	35	1,358

(参考) 過大規模校に対する文部科学省の考え方

公立小学校・中学校の適正規模・適正配置に関する手引き (平成27年1月策定)

☆ 31学級以上の学校 → 過大規模校



過大規模校については速やかにその解消を図るよう促している

①学校の分離新設 ②通学区域の見直し など

*文部科学省では、31学級以上の過大規模校の新增築事業については、分離新設、通学区域の調整等適正規模化のための方策が十分に検討された上で、やむを得ない場合に限り国庫負担の対象としている

(参考) 大阪市会での議論 (市長の見解表明)

平成29年3月1日 市会本会議における吉村市長の答弁

- 西区の堀江地域においては、小学校の過大校化への対応や中学校の狭隘化対策が、まさに喫緊の課題であります。近隣に新たな学校用地を確保することは極めて困難な状況にあります。
- そこで、西高等学校の校舎や広い用地を活用し、狭隘で増築が困難な堀江中学校を移転させるだけでなく、あわせて堀江小学校も西高等学校跡地に分離していくという、小学校、中学校、高校という枠組みを超えた新たな手法で、教育委員会には抜本的な対策を講じてもらいたいと考えています。
- 今後、教育委員会から高校再編や小・中学校の教育環境改善の具体案が出されれば、その実現に向けて、私自身もしっかりと支援していきたいと考えています。

日吉小学校ラウンドテーブルの果たす役割

堀江小学校・中学校の議論の動向も見据えながら、日吉小学校の教育環境課題改善に向け、どのような方策を取っていくか検討を進める必要があります。

その際、行政内部だけの検討に留まらず、地域・保護者の皆様へ早い段階から情報開示を行うとともに、そのご意見をお伺いしながら検討を進める必要があるものと考えております。

このため、このラウンドテーブルにおいては、日頃から学校運営や地域のことも会・青少年活動等にご参画・ご協力いただいている地域・保護者のご代表との意見交換を行うこととしました。

ラウンドテーブルは、原則公開とするほか、その議事要旨および配付資料は、西区役所ホームページにて公表してまいります。

堀江中学校下でのラウンドテーブルの展開

堀江中学校下ラウンドテーブル

堀江中学校ラウンドテーブル

平成29年度 新発足予定

【出席者】

地域・保護者代表・学校
区役所・教育委員会事務局

(注)

平成24年度から開催されていた
ラウンドテーブルとは異なり、
西高用地への移転の可能性を視野に
意見交換を行なう場となる

日吉小学校ラウンドテーブル

平成29年度 新設

【出席者】

地域・保護者代表・学校
区役所・教育委員会事務局

区長が中心となって
各ラウンドテーブルを
コーディネート

堀江小学校ラウンドテーブル

平成29年度 新設

【出席者】

地域・保護者代表・学校
区役所・教育委員会事務局

ラウンドテーブルで意見交換を行うにあたって（１）

1 日吉小学校

- 今年度の増築工事で平成32（2020）年度までの必要教室数は確保できる見込み
- 平成33年度以降については、児童数の将来推計を注視する必要があるものの、比較的大きな校地を有することから、現在地での校舎増築の可能性を含め、改善手法を検討

2 堀江中学校下として

- 議論の状況によっては、中学校下として共同のラウンドテーブルを開催

3 堀江中学校

- 現在の推計では、平成34（2022）年度に教室数不足になる見込みだが、校地が狭隘なためこれ以上の校舎増築は困難な状況
- 市立高等学校再編により西高用地の活用が可能となった場合、西高用地へ移転することにより、教育環境課題を改善していくという方向性
- 平成34年度の移転を想定して意見交換を行う
- 高校の移転スケジュールが明らかになった後にラウンドテーブルを開催
- なお、将来的にも生徒数の増加が見込まれるため、その動向を注視していく必要がある

4 堀江小学校

- 平成30年度には31学級以上となることが見込まれることから、速やかな改善が必要だが、現在計画している以上の校舎増築は困難な状況
- 予定されている第2期増築で、平成34（2022）年度までの必要教室数は確保できる見込み
- 堀江中学校と同様に、西高用地の活用が可能となった場合、小学校を分離していくという手法で、教育環境課題を改善していくという方向性
- 平成34年度の移転を想定し、分離を見据え、早期に意見交換を開始
- 分離の手法としては、「分離新設」または「分校設置」

(参考) 学校配置のメリット・デメリット

	分離新設	分校設置
状態	1つの学校を分け、別の新しい学校を開設すること。	本校から離れたところに（分校）開設し、一部の学年を移すこと。
事例	直近事例として、平成22年4月、焼野小学校（鶴見区）の開設。	友渕小学校（都島区）、常盤小学校（阿倍野区）。
メリット	<ul style="list-style-type: none"> ・独立した学校として運営できる。 ・校地が一体であり、全校行事の実施も含め学校全体としての管理がし易い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校組織として一体のままである。 ・したがって、学校全体としての過大規模状態が収束すれば、（分校を解消して）元に戻せる。
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> ・適当な校地を確保する必要がある。 ・校区の分割が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・適当な校地を確保する必要がある。 ・校地が離れており、学校全体としての管理が難しくなる。 ・全体規模は過大なままであり、全校行事の実施等が難しい。 ・両校間で、児童、教職員の交流、連携が難しくなる。

増築工事竣工イメージ図

